

# 多文化共生の知恵

様々な国の人々が、長期滞在者として、実質的な定住者として、日本の社会や職場に。異なる言語や文化的背景をもつ人々との接点は、以前に比べ飛躍的に多くなった。と同時に、戸惑うような場面に遭遇することが今後、増えていくだろう。

多文化が共生できる社会を創造できるかどうかが問われている。

海外からの留学生・就労者に聞いた **日本の住み心地は？**

## 日本語ができないと大変

ミンさん(ブルネイ)、留学生、茨城県在住

日本で暮らしてみて便利だなと思うことは、公共交通機関の運行時間が正確、水道水が沸かさなくても飲める、ネットで買い物をすると荷物が早く届く、キャッシュレス決済や地図など多様なスマホアプリが利用できることなど。日本人のおもてなしの心は素晴らしいと思います。ただ、物事をもっとはっきり言ってほしいです。

不便だと感じるのは、書類が全部日本語のみであること。それと、ゴミの分別・収集日程は細かくて難しいです。 ■



## 住まい探しに苦労

ゾーイさん(フィリピン)、留学生、東京都在住

緑が豊かな公園がたくさんあって、リラックスできます。お弁当がたくさん売られているので、ご飯を作る時間がない時によく利用します。電子マネーは、どこでも使えるわけではないので現金を持ち歩く必要があり、コインがよくたまります。賃貸住宅を探していて、外国人であるという理由だけで断られたことがあります。今はシェアハウスに住んでいます。

日本人はいつも急いでいるように見えます。何もかも便利で速いことに慣れすぎているからでは。 ■



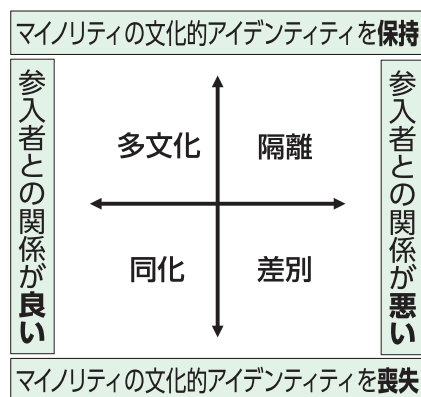
ある個人または集団が別の社会に入った場合、新たに入る側と受け入れる側が互いに対応するかにによって、その後の社会の在り方——多文化・同化・隔離・差別、は変わってくるという。

参加者(マイノリティ)がそのアイデンティティを保持し、受け入れ側が参加者を社会の一員として認めていこうとすれば、社会は多文化の方向に変わっていく。

反対に、受け入れ側が認めようとしなければ、新たな参加者は隔離または差別の対象になり、社会の周辺で生きることを強いられてしまう。

日本社会はどうか。

### ベリーの文化変容モデル (受け入れ側)



※ジョン・ベリー アメリカの比較文化心理学者

## 本当はどう思っているのだろう

ラッタソンさん(ラオス)、留学生、東京都在住

日本語が上手でなくても、お店、コンビニ、スーパーの店員さんはゆっくり話してくれて、とても優しいと感じます。銀行や区役所などで手続きをするときも、スタッフの方が最初から最後まで案内してくれます。日本人はいつも相手のことを考えはっきり否定しません。本当はどう思っているのか分からないことがあります。

難しいのは日本語。郵便で届く書類や領収書など、ほとんどが日本語だけで書かれているので、読めない漢字を辞書で調べるだけでとても時間がかかってしまいます。 ■



## 友だちがいてくれてよかった

ヤンヤンさん(フィリピン、昨年12月帰国)

大阪に住んでいた時に、アパートのすぐ近くにコンビニや自販機があって便利でした。

困ったのは、エンジニアの仕事をしていて日本語で電話する時。

相手の表情が見えないので言葉がよく理解できないことがありました。日本の方は親切でしたが、仕事は完了するまで帰れなくてけっこう厳しかったです。家族に会えないこととか、いろいろな悲しい思いもしましたが、そんな時に日本人や同じフィリピン人の友達がいてくれてよかったです。 ■

